
名取市職員によるエコ通勤 チャレンジデー参加状況調査報告書

1. 調査概要

令和 6 年 6 月～令和 6 年 11 月(8 月除く)までの 5 か月間に実施した「エコ通勤チャレンジデー」の参加状況を詳細に把握するとともに、その成果・課題を分析し、市民や市内事業者への公共交通利用促進の働きかけ(モビリティ・マネジメント)に活用するためアンケート調査を実施した。

【対象職員】

本庁・法務局・保健センター勤務職員(会計年度任用職員を除く)

【調査期間】

令和 7 年 2 月 18 日(火)～令和 7 年 2 月 28 日(金)

【回 収 数】

アンケート回答者数 371/448 人 (回答率:約 82.8%)

※令和 5 年度アンケート回答者数 392/491 人(回答率 79.8%)



エコ通勤優良事業所



企画部 政策企画課

「自転車通勤推進企業」宣言企業

令和 7 年 3 月

2. エコ通勤チャレンジデー実施概要

【背景・目的】

地域公共交通の維持・確保に対する意識の向上及び、市職員の健康増進を図るとともに、公共交通の利用に係る課題や問題点の洗い出しを行い、今後予定している市民や市内事業所への公共交通利用促進の取組(モビリティ・マネジメント)の参考とすることを目的に、市民等に先行して市職員で実施したもの。

【対象職員】

本庁・法務局・保健センター勤務職員(会計年度任用職員を除く)

※可能な範囲での協力をお願いしたものであり、こどもの送迎や、身体上の都合等により自家用車でないと通勤が困難な職員を除く。

【実施期間】

令和6年6月～令和6年11月(8月除く)までの月2日

市役所庁舎、近隣公共施設等でのイベント開催により混雑が予想される日を推奨日とし、個人の予定に合わせて実施。

【実施方法】

各職場まで自家用車・二輪車以外の交通手段で通勤する。

3. 公共交通通勤チャレンジデーの実施状況及び課題

《実施状況及び課題》

■エコ通勤チャレンジデー参加率:27%(昨年度:26%)

今年度から実施日を指定せず、各々の都合に合わせチャレンジできるよう変更したことで10回全て参加する人の割合は大きく増えたが、参加率に大きな増加はなかった。

本事業への参加率を増加させるため継続且つ容易に取り組める事業設定が必要。

■職員の意識(主旨と目的の浸透)

・自転車の利用意向(思う、どちらかと言えば思う)

実施前後:34.1% ➡ 32.6%

・公共交通機関の利用意向(思う、どちらかと言えば思う)

実施前後:26.2% ➡ 26.7%

公共交通機関の維持・確保や自転車の活用の推進を図るため、アンケートや職員掲示板による啓発を通じた意識変容を目指したが、実施前後に大きな変化はなかった。

■エコ通勤チャレンジデーにかかる交通費負担

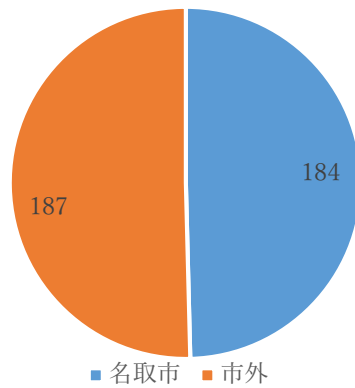
昨年度と引き続き、実施した際の運賃に対する補助の要望が多く、自己負担が発生するため参加しなかった割合も一定数あった。

■公共交通機関と勤務時間の不整合

通勤時間帯に合う便が無いことや、乗り継ぎに時間がかかるため、公共交通利用時の通勤時間が長くなるため参加しない職員が多く、時差出勤を求める声が多かった。

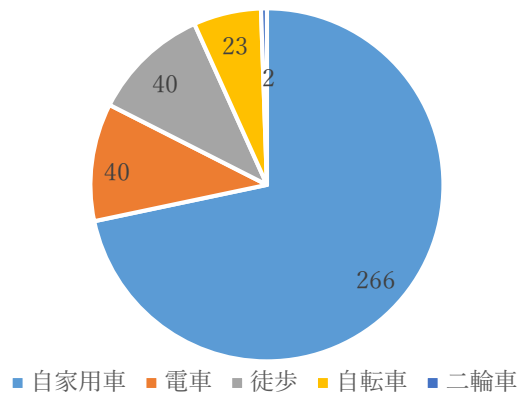
4. 参考データ

(1) 居住地域について(市町村別)

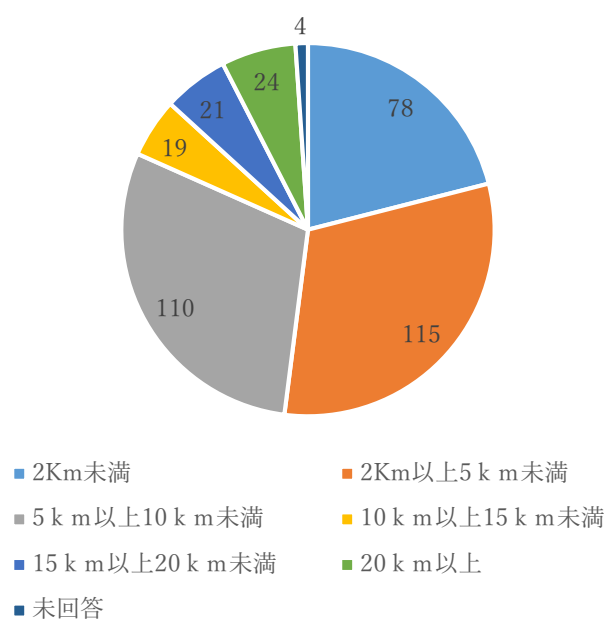


選択肢	回答件数	割合(%)
名取市	184	49.6
市外	187	50.4
計	371	100.0

(2) 現在の主な交通手段について

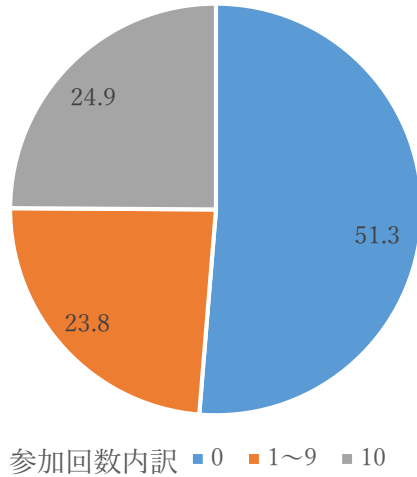


選択肢	回答件数	割合(%)
自家用車	266	71.7
電車	40	10.8
徒歩	40	10.8
自転車	23	6.2
二輪車	2	0.5
計	371	100.0



選択肢	回答件数	割合(%)
2Km未満	78	21.0
2Km以上5km未満	115	31.0
5km以上10km未満	110	29.6
10km以上15km未満	19	5.1
15km以上20km未満	21	5.7
20km以上	24	6.5
未回答	4	1.1
計	371	100.0

(参考)5km未満の通勤距離者の参加状況内訳



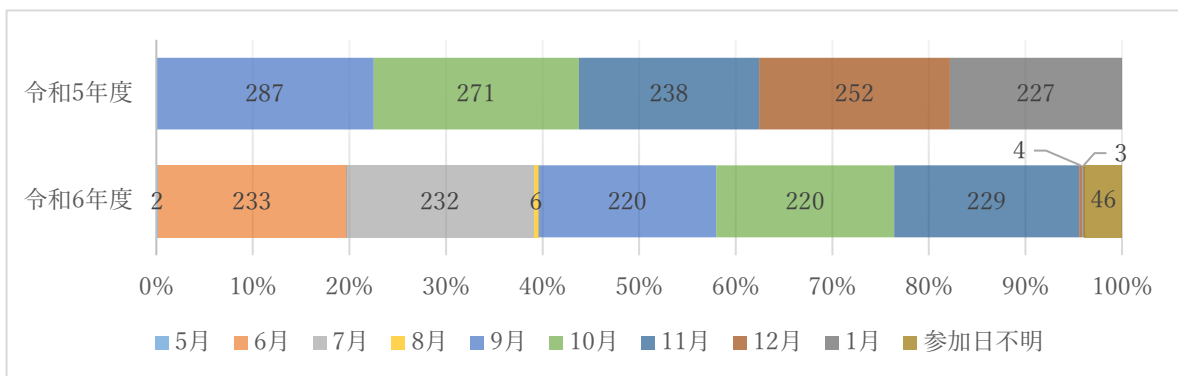
回数	回答件数	割合(%)
0	99	51.3
1	4	2.1
2	7	3.6
3	5	2.6
4	6	3.1
5	5	2.6
6	3	1.5
7	7	3.6
8	5	2.6
9	4	2.1
10	48	24.9
合計	193	100.0%

【Point】

- ・比較的参加が見込める5km未満の通勤距離者の約半数が参加していない。
(不参加理由：時間がかかる、自転車未所持、子どもの送迎等)

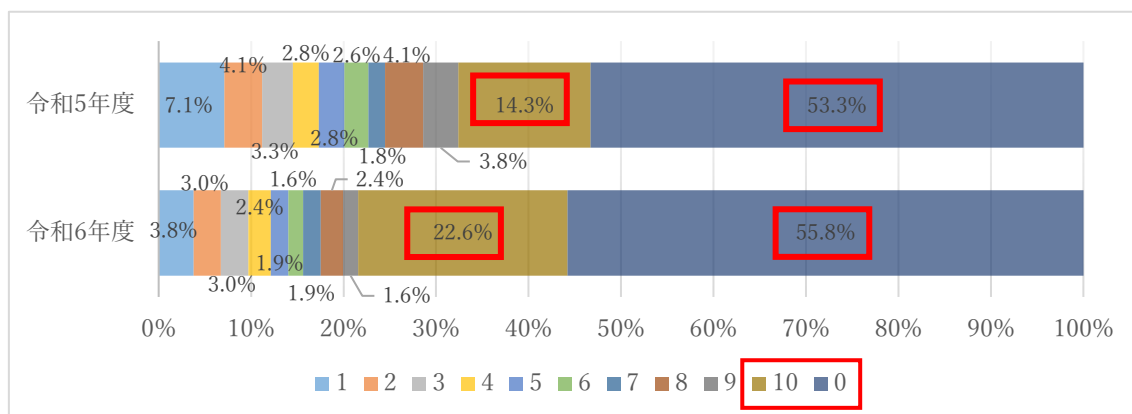
(3)公共交通通勤チャレンジデーの参加状況について

(月別参加状況)



	対象者(アンケート未回答者含む)	のべ参加者数	エコ通勤実施率
令和5年度	491	1,275	26%
令和6年度	448	1,195	27%

(参加回数)



令和5年度

回数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数	209	28	16	13	11	11	10	7	16	15	56

令和6年度

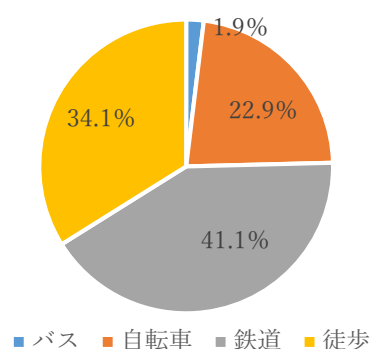
回数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数	207	14	11	11	9	7	6	7	9	6	84

【Point】

- ・1回も参加しなかった人の割合：55.8%（昨年度：53.3%）
- ・全て参加した人の割合 22.6%（昨年度：14.3%）

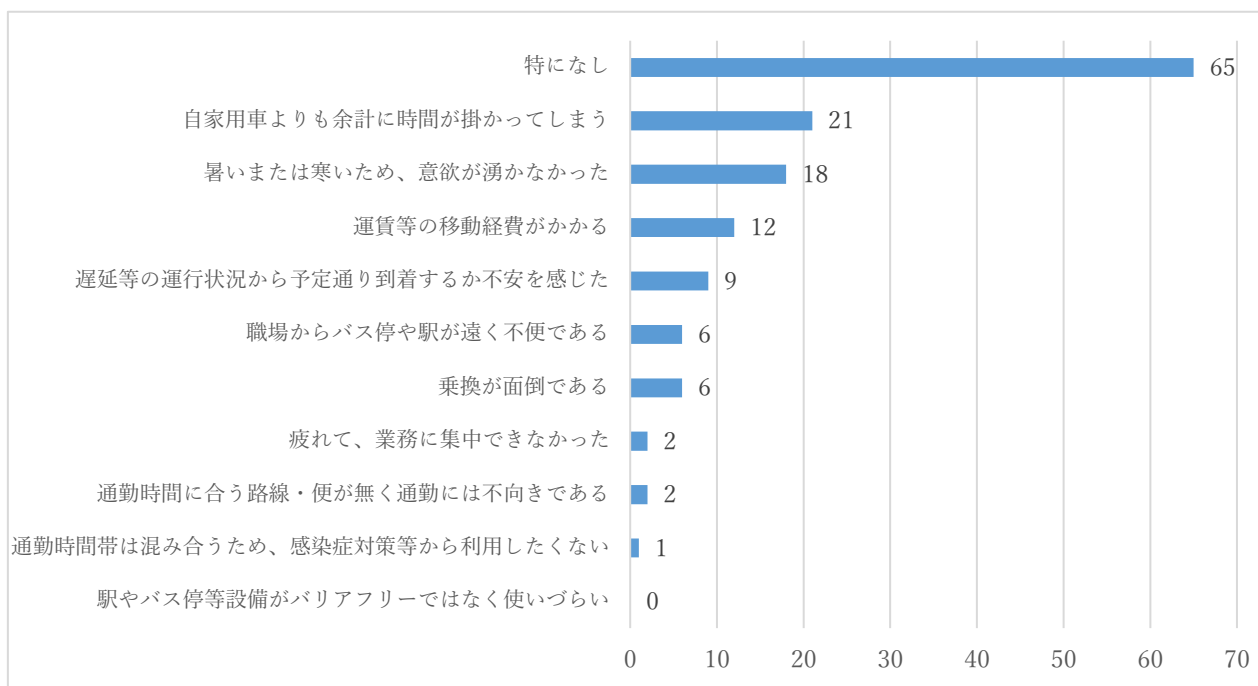
参加する人は継続して参加し、参加しない方は1度も参加しないという両極化してきている。

(4)エコ通勤チャレンジデー当日の通勤手段について

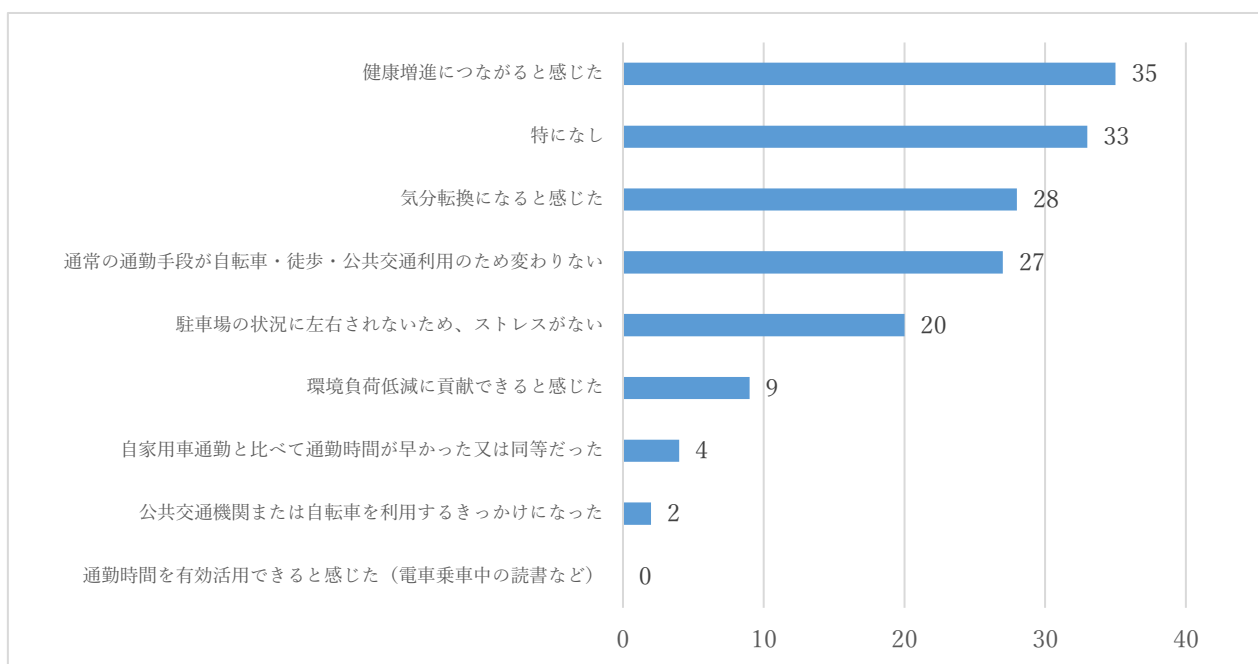


選択肢	回答件数	割合 (%)
バス	23	1.9
自転車	271	22.9
鉄道	496	41.1
徒歩	405	34.1
計	1195	100.0%

(5)実際に通勤手段として公共交通を利用して不便と感じた点を教えてください。
(複数回答可)

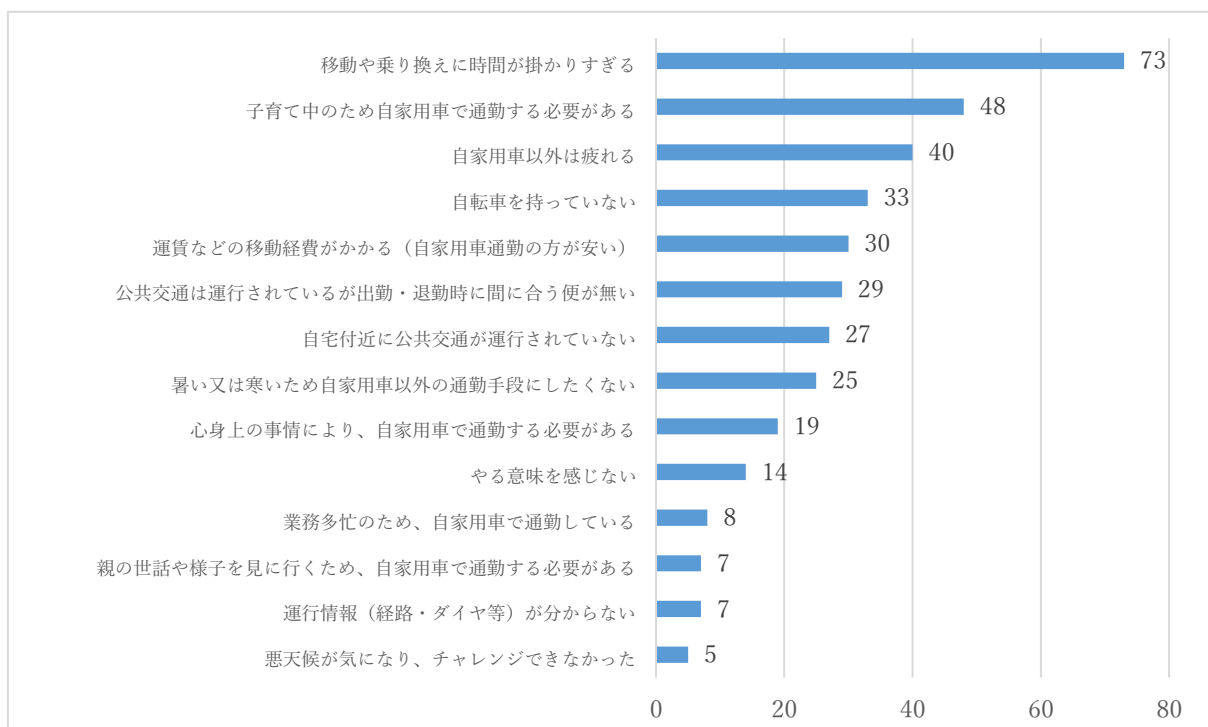


(6)実際に通勤手段として公共交通を利用して良かった点を教えてください。
(複数回答可)

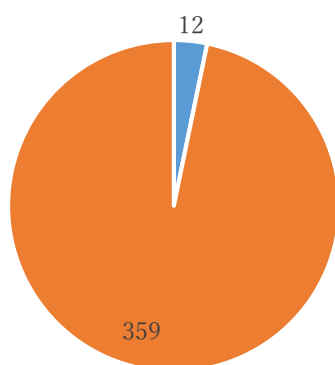


(7)公共交通通勤チャレンジデーに1日も参加できなかった方にお伺いします。

1日も参加できなかった理由について、特に当てはまるものを最大3つまで選択して下さい。



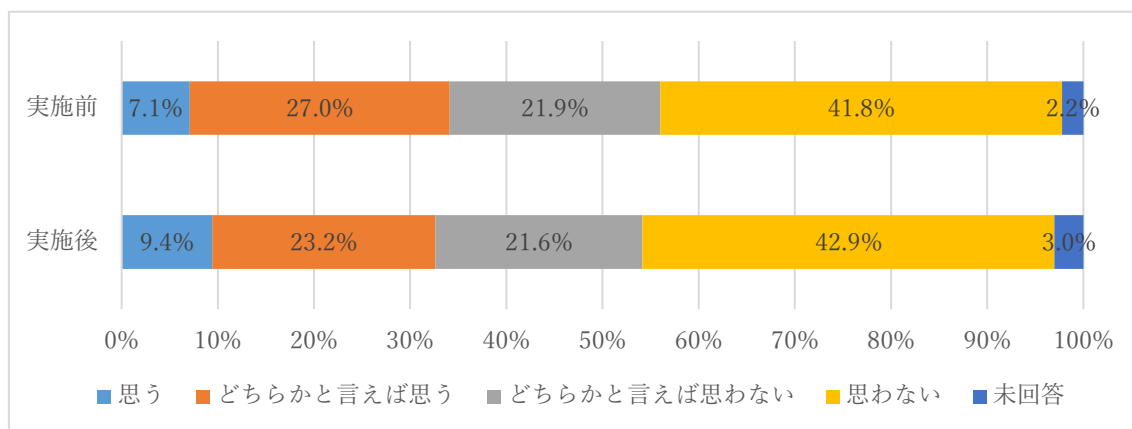
(8)エコ通勤チャレンジデーの実施前後を比較し、公共交通を利用する頻度は増加しましたか。



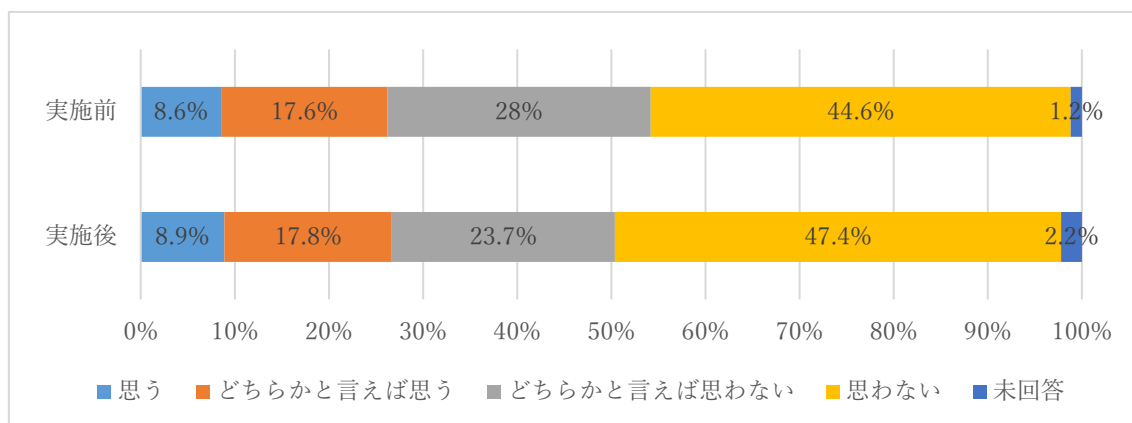
■ 増加した ■ 変わらない

選択肢	回答件数	割合(%)
増加した	12	3.2
変わらない	359	96.8
合計	371	100.0%

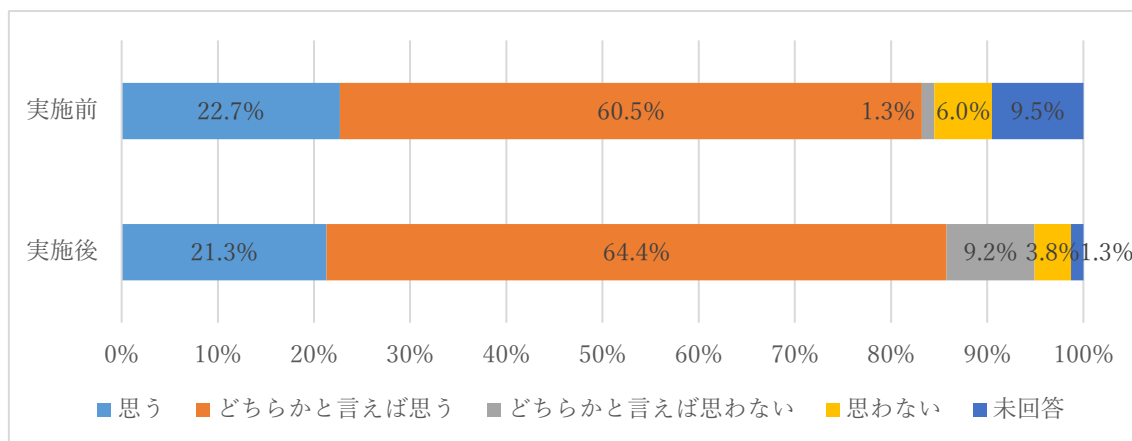
(9)自転車の利用意向(自転車通勤を始めたい、自転車を利用する頻度をもっと多くしたい等)



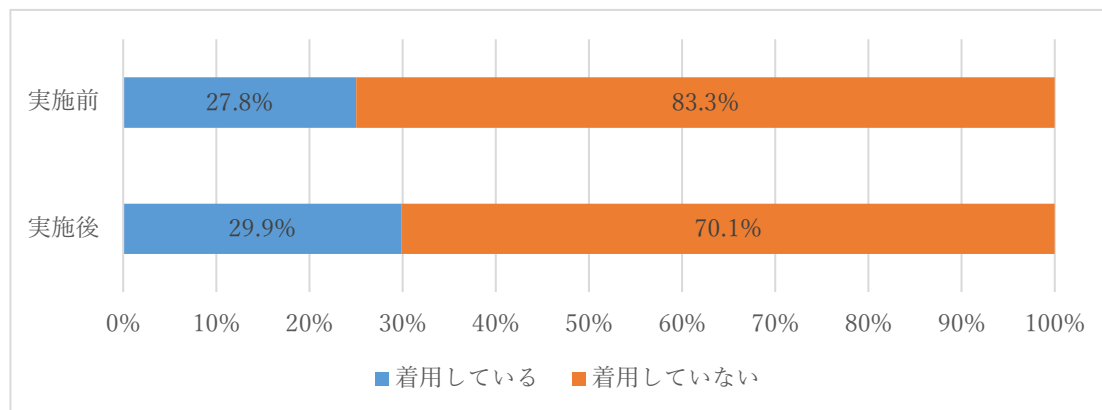
(10)公共交通機関の利用意向(公共交通機関での通勤を始めたい、公共交通機関の利用頻度をもっと多くしたい等)



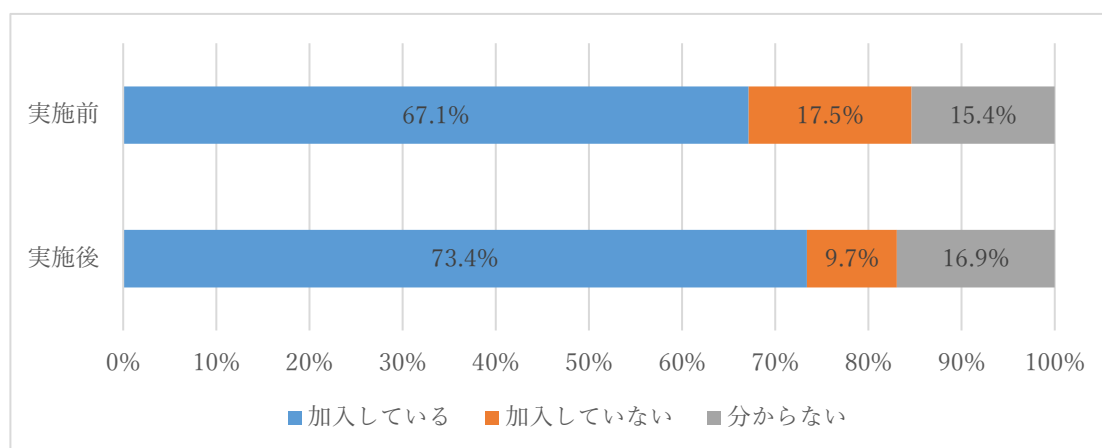
(11)公共交通サービスを維持・確保するため、より多くの人に利用してもらえるよう利用促進の取組を行い、みんなで公共交通を支えるという気運を醸成することの重要性



(12)道路交通法改正(令和5年4月1日施行)により、全ての自転車利用者について乗車用ヘルメットの着用が努力義務となりました。自転車利用時のヘルメット着用について伺います。



(13)宮城県では、自転車安全利用条例(令和2年7月13日公布)により、県内で自転車を利用する際には、自転車損害賠償保険等への加入が義務となっています。自転車損害賠償保険等への加入状況について伺います。



(14)自転車通勤にはがんや心疾患による死亡のリスク軽減や精神面での健康増進、CO2 削減による環境負荷低減のほか、労働生産性の向上にも期待されています。このような自転車通勤によるメリットの認識についてお答えください。

